東京都内湾水生生物調査

地点名 三枚洲(荒川河口) 調査年月日 令和4年5月31日 9:11 **〈調査地点〉 〈庭質状況、底生生物出現状況〉** 荒川とに残さ調査時あったすぐ横

三枚洲

(A) 貝 (水) ル、ル、土土 初田 名 (水) ルン

荒川と旧江戸川の河口に残された天然の浅場。 調査時の水深は2.4mであった。 すぐ横は東京ディズニー リゾートである。

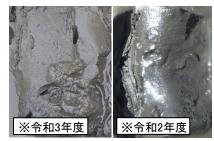
10:00

ふるい上には貝殻片が 残った。昨年度秋の調査 まで確認された植物片は 確認されなかった。



※写真のスケール1目盛:1mm





シロガネゴカイ科

令和元年度の台風による大規模出水の影響により、令和3年度及び令和2年度の調査ではシルト(柔らかい泥)主体の底質となっていた。今回の調査で底質性状は細砂が主体となっており、シルトや夾雑物の植物片はみられなかったことから、本地点の底質は出水前の性状に近づいていると考えられる。

砂底あるいは砂泥底に生息する。 左右の足を波動運動させることで 泳ぎ、活発に運動することができ る。体は一般的に乳白色である。

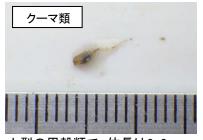


設は桃色で、大型になると白桃色になる場合もある。殻の膨らみは非常に弱く、扁平。内湾の干潟線から30mの砂泥底に分布する。干潟周辺では保全されたアマモ場の泥底に多い。





殻長15mmの整った高い円錐形で干潟 周辺に生息する。殻はやや厚く灰白色 から黄白色の地色に、殻周辺と殻底部 に赤褐色の細い線をめぐらす。潮通し の良い干潟線から潮下帯のアマモ場 の砂泥底に生息する。



小型の甲殻類で、体長は3-8mm ほどである。太くて短い頭胸部と 細長い筒状の腹部からなる。日中 は砂泥中に潜り、夜に海面付近に 浮上して餌を採る。



※写真のスケール1目盛:1mm

8.0

10.0

12.0



底質の性状はシルトであり、クリー ム状でとても柔らかい。



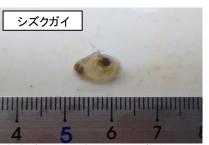
採取した底泥の臭気を確認すると、 やや硫化水素臭(腐った卵のような 臭い)がした。



体長10cm程になるゴカイの仲間。4 つの鋭い牙(顎)がついた吻(ふん) を『チロリ』と出して、干潟の小動物 を捕らえる。



東京湾の内湾部で多くみられる多毛類の一種で、3対の鰓がある。貧酸素環境に耐性があり、有機汚濁指標種となっている。



東京湾では代表的な汚濁指標種。 体長20cm 内湾潮下帯の軟泥底に生息する。 類。東京湾 貧酸素耐性があり、無酸素状態でも 貧酸素状態 水温25℃であれば1日間生存できる。みられる。



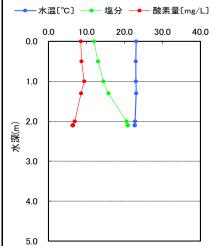
体長20cm以上になる大型のゴカイ類。東京湾の泥底~砂泥底では、 貧酸素状態の期間を除き、普通に みられる。

東京都内湾水生生物調査

地点名 森ヶ崎の鼻 調査年月日 令和4年5月31日 11:15 12:14 <底質状況、底生生物出現状況>

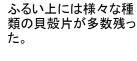
<調査地点>







羽田空港の北側に残さ れた干潟。干潮時でも 周りは「海」に取り囲ま れているため、岸から 歩いて入ることはできな l1º





※写真のスケール1目盛:1mm



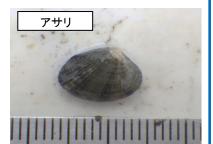
底質は固めの砂であった。



全国の干潟に生息する。カワゴカイ属 は、昔ゴカイと呼ばれていた種類である。 現在は3種類に分けて分類されている。



紐状の生物であり、とてもちぎれや すい。肉食性で、体内に収納してい る吻を伸ばして生きた多毛類等を 捕食する。



卵型で殻長4cmになる。殻は良く 膨らみ、殻の表面は光沢の弱い 布目状となる。砂質干潟の沖合で 生息する個体は殻がやや長く、膨 らみが弱く薄くなる。

【調査対象外】

マハゼ



河口域を中心に生息するが、河川 淡水域に遡上することもある。春か ら秋にかけて干潟で成長し、冬にな ると産卵のため深場へ移動する。

マメコブシガニ



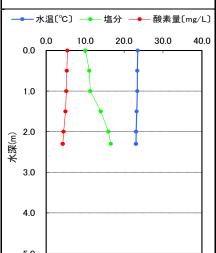
内湾の潮間帯、砂泥や砂礫泥な どの底質に生息する。甲羅は丸み を帯びており、歩脚は短く目窩と 目柄も小さい。

東京都内湾水生生物調査

地点名 多摩川河口干潟 調査年月日 令和4年5月31日 12:35 ~ 13:30

<調査地点>





<底質状況、底生生物出現状況>



多摩川左岸側(東京都側)の海老取川河口付近の干潟で調査を行った。



貝殻や植物片などの 夾雑物が交じる。

※写真のスケール1目盛:1mm



底質は固めの泥であった。



殻長4cm程になる。汽水域にのみ生育するため、河口域に生息するものは出水などの影響を受けやすい。

ミズヒキゴカイ



砂泥干潟や浅瀬の海底に潜り、細い糸のような鰓と触手を水中に伸ばしていることが多い。名前の由来は、鰓と触手を水引に見立てたもの。



詳細は森ケ崎の鼻を参照。



体長2cm程になる、フナムシに近い仲間。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。 干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。

ヤマトオサガニ



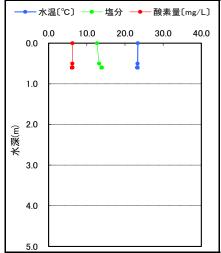
甲幅4cm程度になり、柔らかい水分の多い泥干潟に斜めの穴を掘って巣穴を作る。巣穴の入り口には放射状の浅い溝ができる。 干潟の代表的なカニで、鳥類にとって重要な餌になっている。

東京都内湾水生生物調査

地点名 St.31(多摩川河口) 調査年月日 令和4年5月31日 13:40 ~ 14:42

<調査地点>





<底質状況、底生生物出現状況>



多摩川河口から1.5km 付近の浅場で調査を 行った。 水深が1m程度とやや 深いため、船上から採 泥した。



ふるいには主に貝殻片 が残った。

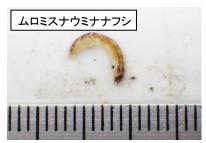




底質は細砂で、シルトが少し混じ る。



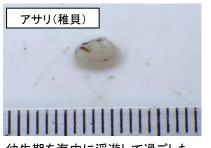
殻高15mm程になり、殻の表面には 粗い粒状突起が並ぶ。干潟から水 深3mの砂泥底に生息する。魚や貝 の死骸を食べる性質があり、「海の 掃除屋」と呼ばれている。



詳細は多摩川河ロ干潟を参照。



全体的に褐色で触覚や胸部に濃褐色の帯がある。内湾性で、潮間帯下部から上部にかけてみられる。 主に懸濁物食者であるが、小さな甲殻類を食べるなど捕食行動をとることもある。



幼生期を海中に浮遊して過ごした後、体長が0.2mm程になると海底に着底し、足糸と呼ばれる分泌物により砂礫などに付着する。その後4-6か月で殻長が1.0mmほどになると砂泥に潜って過ごす。



詳細はSt.6参照。